

令和5年度2学期始業式校長講話

皆さんおはようございます。校長の高橋 聡です。さて、充実した夏休みを過ごせましたか。今年度は3年ぶりに部活動の合宿も実施でき、新人戦や夏季大会、発表会等を目標に練習に打ち込んだ運動部・文化部の部員の皆さんお疲れ様でした。夏休み期間中に水泳部で1年6組の竹村俐音さんが50m自由形でインターハイに出場しています。健闘をたたえ、拍手をお願いします。夏の練習の成果は、これから涼しくなった頃に必ず目に見えてくるはずですので、その成果を楽しみにしています。夏季講習に参加した3年生の皆さん、いよいよこれから受験に向けて本格的な取組がスタートします。計画通りに勉強が進んだ人はこの調子で、進まなかった人はこれから、取り戻しましょう。現役生は、受検直前まで成績が急上昇するチャンスがあります。まだ、慌てないで大丈夫です。もう一度計画を再検討してみてください。学習の成果が表れるまで3か月かかると言われています。頑張った人は3か月後を楽しみにしてください。

2学期が始まるにあたって、皆さんに2点お話しします。

まず、防災についてです。9月1日（金）は防災の日で、1923年（大正12年）9月1日に発生した関東大震災に関東地方が見舞われた日です。マグニチュード7.9、死者・行方不明者は推定10万5,000人で、明治以降の日本の地震被害としては最大規模です。東日本大震災はM9.0で、阪神淡路大震災は、7.3でした。「防災の日」を含む1週間を防災週間として、防災活動訓練などが実施されます。「自助・共助・公助」という言葉を聞いたことがあると思います。住民が自らの命を自ら守る意識をもって行動する「自助」、地域住民や企業等が連携してお互い助け合う「共助」、行政、防災関係諸機関が連携し防災活動、復旧活動を行う「公助」を覚えておいてください。皆さん高校生は、自助と公助が求められま

す。自分の身を守り、加えて地域の皆さんのためにできることを進んで行うことを期待しています。さらに、これを契機に実際に被災した場合、どのように自宅に帰るか、家族とどのように連絡を取るか、帰り道で危険な場所はないかについて、確認をしてください。

次に、今日お話ししたいのは、サザンオールスターズ桑田佳祐さんについてです。というのは8月2日、日本テレビ系「news zero」で有働由美子キャスターから特別インタビューを受け、オンエアされたのを見たのがきっかけです。サザンオールスターズは今年、デビュー45周年イヤーを迎えた国民的ロックバンドです。有働さんから「曲作りで45年間大事にしてきたこと」を聞かれた桑田さんは『これは曲にならないね』というのはあまりないと思う。諦めないでいると、絶対何とかなるだろうって自信みたいなものもあるんだけど、あと違和感。曲つくっているときに『なんか面白くないんだよね』というのは、必ずあると思う。(他人から)『最高です』なんて言われたとしても、自分としてはなんかね(違和感があるんだよね)」と語りました。桑田さんは「僕も普通に社会生活していると、無力感はそのまま置いて、素通りするタイプなんですけど、仕事に関しては諦めたくないというのが…『なんか面白くないんだよね』ということを必ず諦めずに追求していく。45年くらいやってこられたのは『諦めの悪さ』と答えました。諦めないこと、諦めの悪さと「なんか面白くないんだよね」だから「面白くしよう」とすることに共感しました。「よく学校がつまらない」とか、「クラスがつまらない」とか、勉強でも、学校でも、クラスでも、部活動でも、学校行事でも、仕事でも、「面白くなかったら、面白くしよう」と、諦めないで「なんで面白くないのか、どうしたらおもしろくなるのか」追求したいですよ。

そこでまた、サザンや桑田さん関連の本を5～6冊読んでみました。そこから、皆さんに伝えたいことがいくつかありました。

1 「俺のやっている仕事はいわゆる“仕事”ではない」

また、桑田さんは、著書「素敵な夢を叶えましょう」の中では、「仕事は労働だから、労働に対する報酬があるわけで、そうすると「この仕事いくら？」みたいな捉え方が出てきて当然でしょ?!でも俺は好きなことを生業にしているんで、あんまりそういう発想がぴんと来ない。子供に「どこ行くの?」と聞かれれば、「仕事」と答えるけれど、そこで「音楽づくりに」っていうのも変だしね。俺のやっていることは仕事ではない。」と書いています。これは、1学期終業式に話したタモリさんの話と共通します。仕事を仕事とっていないのでしょうか。皆さんにも仕事を楽しめる、仕事に喜びを感じることができるようになってほしいと思います。

2 「プライドとダンディズム」

他の章では、「ほかに何をしてもいいから、これだけはやらない」というこだわりがプライドにつながっていく。人間は完璧じゃないから、一時（いつとき）負けてもいい。でも何でもかんでも譲るのではなくて一つでもいいから譲れないものを持っている。そうすると仲間や最愛の人間を裏切らないで済む。「自分は何にこだわっているのか?」を大事にすれば、自分も許せるし、他人もある程度許せるようになる。それがプライドっていうものではないか。と桑田さんは書いています。私もこの仕事が大好きで、楽しんで、自分なりのプライドを持って取り組んでいます。皆さんも自分のこだわりについて考えてみてください。

さらに、桑田さんは小学校のころ、自分は草刈正雄に似ていると思っていたけれど、「桑田は長門裕之に似ている」と言われて内心ひどく傷ついたことを今でも覚えていたり、デビューして間もなくして、女性歌手に「桑田くん、顔が地味だからもっと派手な格好したほうがいいわよ」と言われて傷ついたりしていました。後年彼女は「そんなことは言って

いない」と言っているらしく、言った側はあまり覚えていなかったりするようです。傷つけた側は悪気はなくて覚えていないのに対し、言われて傷ついた側はいつまでも覚えているものです。一方、サザンがデビュー曲「勝手にシンドバッド」が新人賞レースで渡辺真知子に敗れた時、レコード会社の制作本部長が、目に涙をいっぱい浮かべて、「佳祐ごめん。わかっているやつは分かっているんだ。お前には才能がある。」って言ってくれたことはうれしくて忘れていないというのです。人を傷つけて忘れられない言葉と人を励まして、うれしくさせて忘れられない言葉があることを覚えておいてください。

サザン 45 周年及び桑田さんの著書から、「違和感と諦めの悪さ」、「仕事を楽しめるように」、「プライドとは」、「傷つけられた言葉も思いやりのある言葉も人は忘れないこと」をお話ししました。

最後に、学校生活で、何か困ったことや不安なことがあれば、一人で抱え込まずに遠慮なく先生方に相談してください。引き続き、校長室の扉はできる限り開放していますので、気軽に校長室に進路や英語の学習法の相談に来てください。特に、英語学習については全然相談や質問がないので、絶賛募集中です。今日から 2 学期のスタートです。杉高祭もすぐ始まりますし、2 年生の台湾修学旅行も計画されています。皆さんが 2 学期、充実した学校生活を送ることができるよう応援します。私からの挨拶は以上です。